



じょうそう

編集・発行
常総地方広域市町村圏事務組合
守谷市野木崎 2522番地
TEL.0297 (48) 2339
<http://www.jyouso-koiki.or.jp>

新 分 別 区 分

(平成23年度実施)

種 類	分 別
1 可燃ごみ	1 燃えるごみ
2 不燃ごみ	2 燃えないごみ
3 粗大ごみ	3 1辺が30cmを超えるもの
4 資源物	4 缶
	5 無色ビン
	6 茶色ビン
	7 その他の色ビン
	8 新聞紙
	9 雑誌・雑がみ
	10 ダンボール紙
	11 紙パック
	12 古布
	13 プラスチック製容器包装 (追加)
	14 ペットボトル (追加)
5 有害ごみ	15 乾電池・体温計
	16 蛍光管 (追加)

施設更新の前提

新しく建設する常総環境センターは、これまでの国の「補助金制度」から「交付金制度」により更新するものです。交付金制度の活用にあたっては、循環型社会の実現を目指し、ごみの排出量抑制、減量化、資源化、再利用に積極的に取り組む「循環型社会形成推進地域計画」により推進していくものです。

施設規模の設定

新常総環境センターの施設規模は、将来の人口増加に伴うごみ排出量の増加から当初計画では焼却施設が414トン、資源化施設が141トンで設定しました。しかし、ごみの減量化等の施策を強力に推進する地域計画により次期施設の規模を算定するため、将来人口は増加しても、ごみ減量化を推進することで、焼却施設の規模を「258トン」、

施設の特徴

焼却施設は、24時間運転で86トンの3炉構成とし、2炉運転を基本とすることで、ごみ

新分別区分

今後、新常総環境センターで適正にごみ処理を実施していくため、新施設稼働の平成23年度に合わせ、ごみの分別区分をこれまでの5種13分別から5種16分別に見直し

減量目標値

新常総環境センターの稼働に向けて、ごみの減量化を強力に推進するため、構成市ごとに1人1日当たりのごみ排出量の目標値を設定しました。常総広域圏は、つくばエクスプレスなどの交通網整備が進み、沿線を中心とした住宅開発の進展により、人口の増加が見込まれるため、ごみの排出量を抑制する必要があります。施設規模を縮小したため、この目標値を達成させていくためには、常総広域圏の将来の人口増に対応したごみ処理が厳しくなります。

1人1日当たりの排出量

区 分	基 本 (平成16年度)	目 標 (平成32年度)
全 体	745.3g	693.0g (7%減)
常 総 市	578.1g	561.8g (3%減)
取 手 市	845.1g	764.1g (10%減)
守 谷 市	720.5g	686.2g (5%減)
つくばみらい市	676.5g	649.4g (4%減)

※構成市ごとの目標の違いは、過去の構成市ごとのごみ排出量を基本に、目標値を設定しました。

ごみ減量にご協力を！



み搬入量に応じた適正処理をしていきます。

資源化施設は粗大ごみを5時間運転で83t、資源物を5時間運転で44トンの処理をして資源化をしていきます。

具体的には、これまでの5種13分別から新たに資源物に「プラスチック製容器包装」、「ペットボトル」、有害ごみに「蛍光管」を加えた5種16分別に見直すこととなります。ごみを分別することは、減量化・資源化の第一歩につながるものでありますので、分別徹底にご協力をお願いいたします。

全体としての目標値は、平成16年度の1人1日当たり745g(ぶどう1房分)を基本として15年後の平成32年度には50g(卵1個分)を削減させなくてはなりません。この目標値を達成するためには、市民一人ひとりが生ごみを出さないように心がけたり、過剰包装を断るなどのごみを出さなければなりません。今後とも、より一層のごみ減量化に向けたご協力をお願いいたします。

常総環境センターの施設内容

キルン式ガス化 溶融方式

今回の施設は、キルン式ガス化溶融方式を採用します。
このシステムは、キルン炉（熱分解ドラム）で約1時間かけてごみを蒸し焼き状態で熱分解させ、熱分解ガスとチャー（ごみが炭化したもの）に分け、それを溶融炉で溶かしてスラグ化するシステムです。特徴は、キルン炉で熱分解させた熱分解ガスをエネルギーとしてキルン炉、溶融炉の熱源とすることで有効に活用するため、ごみの持つ熱を最大限に使って溶融まで行う熱回収率が高いシステムであります。

さらに、ごみ質が低いときには別途に貯留したチャーを助燃材として、溶融炉に入れることで灯油の使用を抑制させることができます。

このように、キルン式ガス化溶融方式は、ごみ自身のエネルギーを有効利用するため燃料使用量の削減や温室効果ガス発生抑制にも効果があります。

資源化施設

資源化施設では、不燃・粗大ごみは、不適物を除去した後、破碎処理をして鉄・アルミ類を回収します。
破碎された可燃性のものは焼却施設へ送り、焼却処理をいたします。

ビンについては、茶色・無色・その他の色ごとにコンベヤに流して不適物を除去し、カレットとして資源化したします。

缶類は、不適物を除去した後、選別機によりアルミとスチールに分別し、圧縮機により成形させ、資源化していきます。

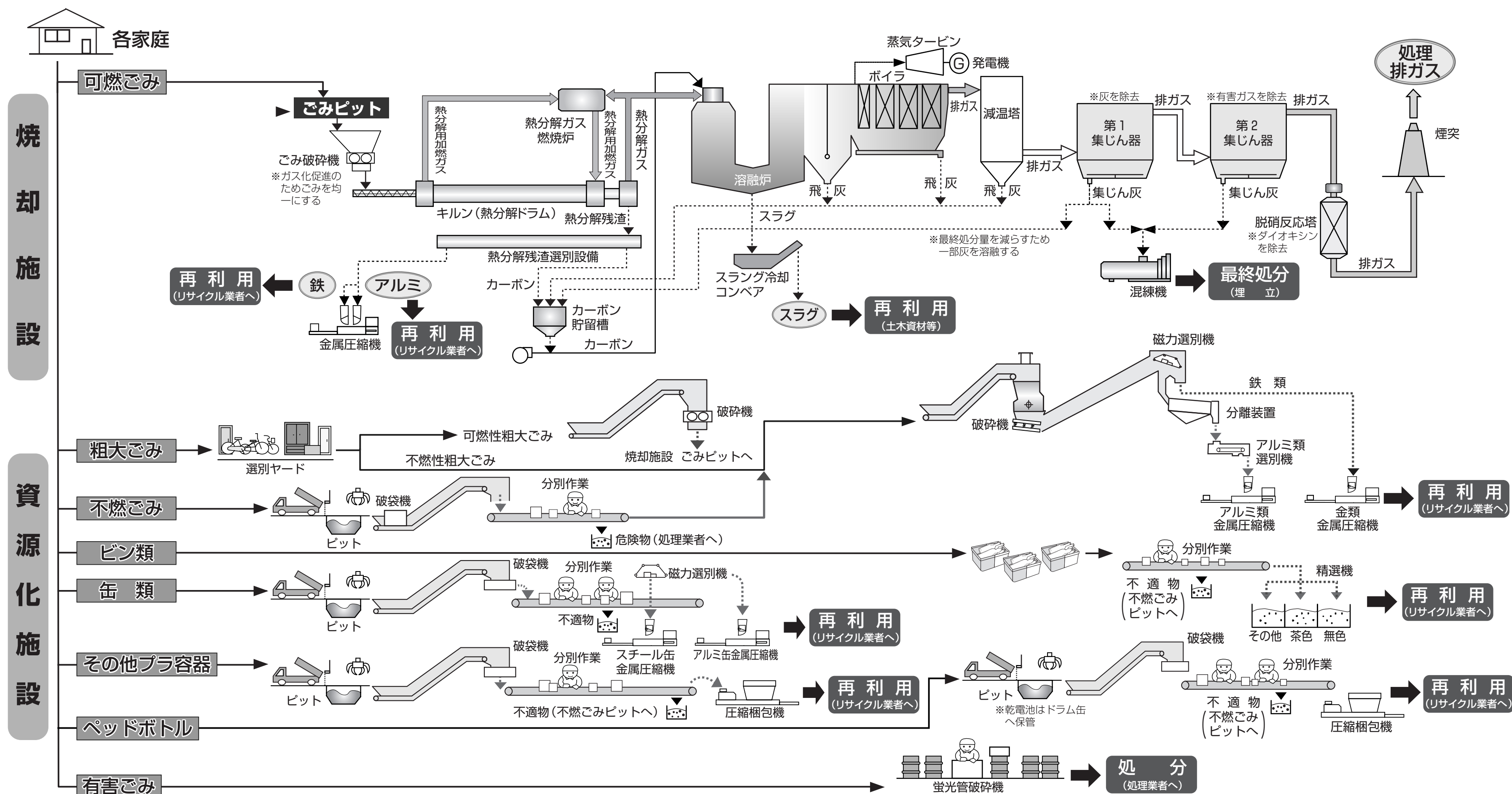
プラスチック容器類については、不適物を除去した後、圧縮機により圧縮梱包して資源化していきます。

ペットボトルについては、不適物を除去した後、圧縮機により圧縮梱包して資源化していきます。

有害ごみについては、ドラム缶に保管し、一定量となったら処理業者へ搬送し、処理を行うものです。

このように皆様から分別排出された資源物を各種引き取り基準に合致させて資源化していくものです。

ごみ処理の流れ



常総環境センターの施設配置

施設配置計画

新施設の建設用地については、既存施設を運転しながら更新していくもので、運動公園の一部を取り壊し、既存施設解体後に公園用地に復元する等面積交換となります。

そのため、限られた用地を最大限に活用した施設配置として、ごみ収集車と資源物等の搬出車両が交差しない安全で合理的な動線を確保し、プラットホームを共有化するなど焼却施設と資源化施設を一体的で効率的に整備します。

建設状況

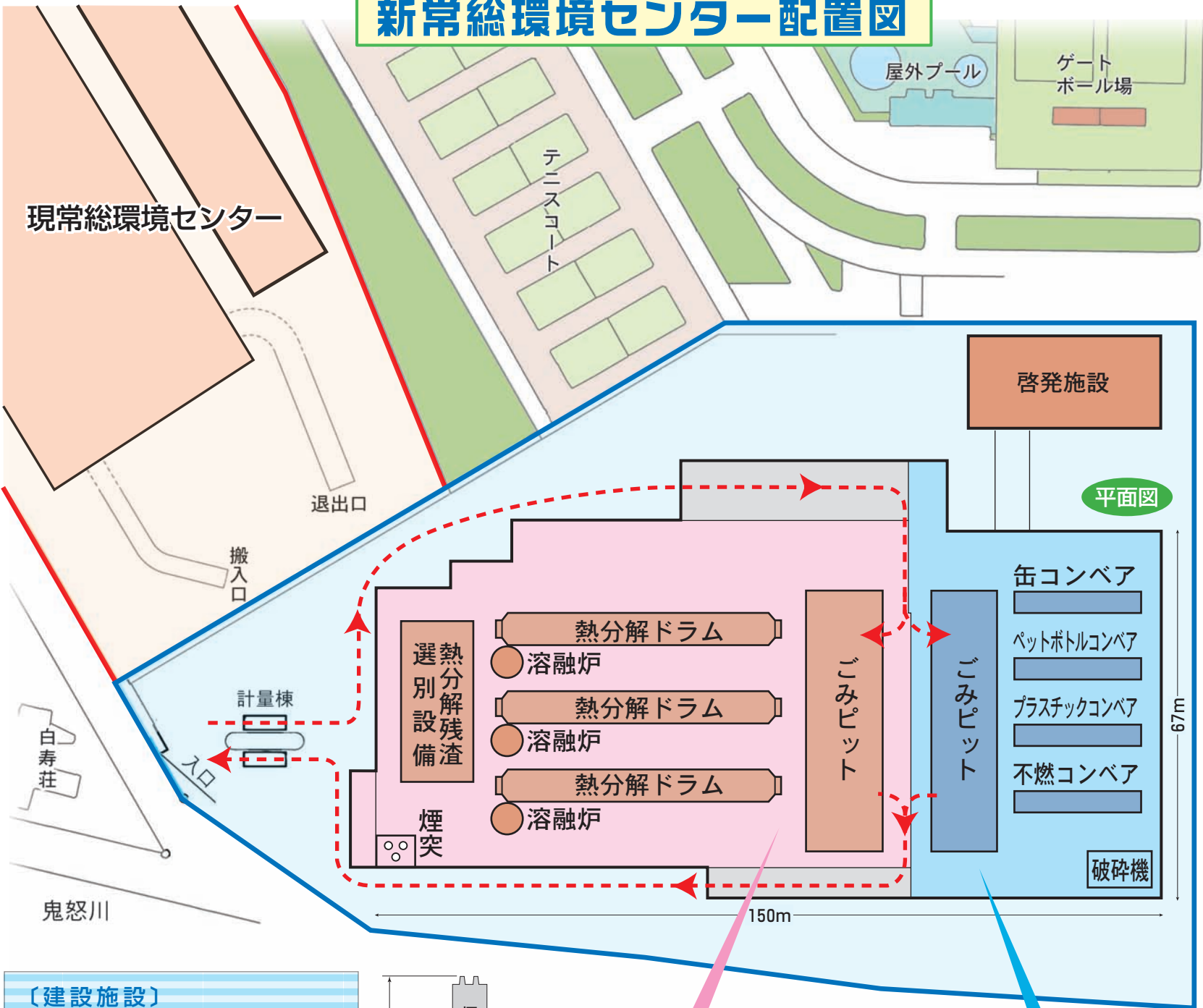
ごみ処理施設の建設は、発注者である組合が提案する仕様書に基づき、受託者であるプラントメーカーが設計・施工する性能発注となります。

今年度前半は、施設計画の基礎となる施設配置、主要機器仕様の基本設計図書等を作成いたします。この基本設計図書等に基づき、年度後半までに詳細な実施設計を作成し、それに基づいて建設工事を実施します。

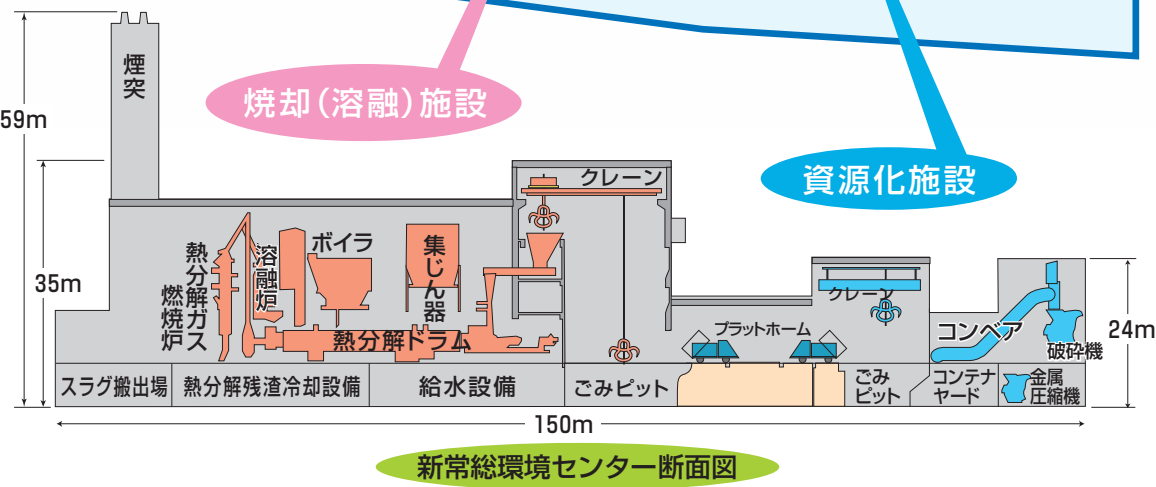
また、計画地にかかる運動公園の遊具・テニスコートの撤去等を今年度後半に実施します。

今年度は、主に各種の設計を中心に事業を進め、平成21年度から本格的な建設工事を実施し、平成22年度の竣工を目指します。

新常総環境センター配置図



〔建設施設〕	
●建設敷地	21,000㎡
●建築面積	9,200㎡
●延床面積	22,000㎡
●焼却施設（ガス化溶融施設）	258t（86t／日×3炉）
①ピット容量	9,500㎥（7日分）
②発電	3,000kw
●資源化施設（リサイクル施設）	127t／5h
①粗大ごみ処理	83t／5h
②資源物処理	44t／5h



福祉センターの
管理運営者募集

常総広域では、福祉センターの建替えを計画しており、その管理運営者を募集いたします。

管理運営者には、建替える福祉センターの設計段階から協議に参画していただき、より管理の実態にあった施設を整備していくものです。

具体的には、環境センターの余熱を利用した温浴設備や地域に密着した特産物の販売、美しい景観を望む宿泊設備等、高齢者や幅広いニーズに応えた施設を予定しております。

開設予定

平成23年4月

管理運営内容

利用者の休憩・宿泊サービス、窓口・送迎サービス、レストラン等

募集期間

平成20年8月23日から10月31日

問合せ先

常総地方広域市町村圏事務組合 福祉センター
電話 0297（48）3217